

さてかうは申しまして、あまり現実とかけ離れてみますので、今出来る範囲でどうしたらいいかといふことを申し上げます。

まづ、何としても一年生に重点を置くべきで、漢字で書きあらはせる言葉は、一年の最初から漢字で提示する事です。私は一年生を四回指導しましたが、漢字は最初三百字(文部省の標準は三十字)、次に五百字、最後には六百字を提示しましたが、一年生は六百字でもちっとも困った顔をしませんでした。ところが六年生は二百字でもこれを丸暗記することは大変です。論理的に教へれば別ですが、今の丸暗記方式だったら、一年生にまづ五百字は教へるべきでせう。さうして学年が進むにつれてだんだん減らしてゆけば、小学校を卒業する時には、一千字の漢字が習得できて中学の教科書がほぼ読めるやうになるでせう。しかし、現在では、半数以上の子が教科書が読めません。そしてこの子たちが非行や問題行為を起こしてみます。教科書が読めない児が一日学校で机の前に^{すわ}坐ってゐたらどんな精神状態になるか、^{さっ}察してみれば解^{わか}るはずです。教科書が読めないといふこの現実を解決しない限り、どんな手を打だうとも、問題児、非行児はなくならないと思ひます。小学校の教育をまづ直す。幼稚園教育も今は随分普及してをりますから、

幼稚園でも広くこの方法が採り入れられるなら、教育は非常に楽になると思ひます。

もう一つ最後に申しますと、最初から漢字で学ばないと、本当に頭脳の優れた児にはなり難いのではないか、といふことです。これは日本道路公団が、今から二十数年前に行った実験によるものですが、仮名で書かれたものは一つの単語を読むのに平均 0.7 秒かかるけれども、漢字で書かれた同じ内容の単語は、0.06 秒で読みとることができるといふものです。十分の一以下の時間で読み取れるのですね。最初から漢字で学んだ児に較べると、仮名から学習した児は本を読むのに十倍の時間がかかることとなります。これは実は、私が自分の子供について実験したことですが、大人の私が就学前の子供にとっても追ひ着けませんでした。

時間になりましたやうで、以上で私の問題提示にさせて戴^{いただ}きます。

(以下 討論)